



私たちの生き方に道徳と宗教はどうか？

「道徳と宗教に関する研究会」(共同研究)の取り組み

道徳科学研究所 研究員
共同研究代表者

竹中 信介
たけなか しんすけ

道徳と宗教はどのような関係にあるのか？

総合人間学モラロジーの創建者・廣池千九郎(二八六〇―一九三八)は、「宗教」ではなく、「道徳」で世界の平和と人類の幸福を実現しようと考えました。しかし、モラロジーには、「深く天道を信じて安心し立命す」という格言や、自然の法則を「神の心」ととら



参考図：宇宙の真理もしくは原理を説明する方法(廣池千九郎著・新版『道徳科学の論文』第1冊「第1章第8項 道徳科学と宗教」、62～63頁より)

える発想など、宗教的な表現が数多く見られます。皆さんはモラロジーを学ぶときに、「モラロジーは宗教なのか、道徳に関する科学

なのか？」という疑問を感じたことはないでしょうか。

このようなモラロジーの性格や、学習の際に抱きやすい疑問点を念頭に置きつつ、本共同研究では、「道徳と宗教はどのような関係にあるのか」「私たちの生き方に道徳と宗教はどう関わるのか」などの問いについて、研究を進めています。

メンバーと活動内容

本共同研究は、代表を研究員の竹中信介が務め、共同研究者として、田島忠篤客員教授、宗中正教授、モラロジー専攻塾卒業生の鋤柄雄司氏(岡崎事務所所属)が参加しています。また、長年ユネスコ(国連教育科学文化機関)で活躍された服部英二先生に、専門の比較文明学の立場から助言をいただいています。

研究会には、このテーマに関心のある所員など六、七名が参加し、活発に議論して

います。これまでフランスの哲学者アンリ・ベルクソン(二八五九―一九四二)の『道徳と宗教の二つの源泉』や、オランダの哲学者バールーフ・デ・スピノザ(一六三二―一六七七)の『エチカ』、日本の哲学者九鬼周造(二八八八―一九四二)の『いき』の構造』など、道徳と宗教が深く関わり合う著作を扱ってきました。「神」と「自然」の関係、世界・人類に開かれた視点、正義と慈悲・愛などに関する著者の考えが書かれています。モラロジーとの共通の視点が見えてきました。また、世界の成り立ちや宇宙の真理を説明するうえで、宗教の役割も確認できました(「参考図」を参照)。彼らの見解は、私たちの生き方や日々の実践を考えるうえで多くの示唆を与えてくれます。

今後は、道徳と宗教の関係についての基礎的な学習資料の作成を考えています。「道徳と宗教に関する主要文献リスト」、「文献解題・解説集」のような形式を想定し、取り組みを進めています。